

28年度

医学教育モデル・コア・カリキュラム

改訂の概要

齋藤宣彦

(北村 聖氏をはじめとするWG構成員の成果)

1

今回の改訂にあたっての考え方 1/2

1. キャッチフレーズ

「多様なニーズに対応できる医師の養成」

国際的な公衆衛生や医療制度の変遷に鑑み、国民から求められる倫理観、医療安全、チーム医療、地域包括ケア、健康長寿社会などのニーズに対応できる実践的臨床能力を有する医師を養成する

2. 社会(高齢化や少子化、疾病構造の変化を含む)の変遷や国民の医療に対する意識の変化への対応

2

今回の改訂にあたっての考え方 2/2

3. 卒前医学教育から卒後研修への一貫性

卒前学習(診療参加型臨床実習を含む)→国家試験→臨床研修

→専門研修→生涯学習

(モデル・コア・カリキュラム・国家試験出題基準・臨床研修の到達目標・生涯教育カリキュラムの整合性)

4. 「医師として求められる基本的な資質・能力」

(後述)

改訂の概要 1/2

1. 縦のつながり:モデル・コア・カリキュラム・国家試験出題基準・臨床研修の到達目標、生涯教育カリキュラムの整合性
2. 横のつながり:医学と歯学のモデル・コア・カリキュラムの一部共有化
3. 「医師として求められる基本的な資質・能力」の実質化
4. 診療参加型臨床実習の充実
5. 地域包括ケアシステムの教育
6. 「腫瘍」の充実化

改訂の概要 2/2

7. 指導の方略への言及(主に診療参加型臨床実習の項)
8. 教養教育と準備教育の統合的な整理
9. 「目標」の整理
「一般目標」・「到達目標」→「ねらい」・「学修目標」 「*」の削除
10. 総量のスリム化
11. 医学用語・外国語等の表記の整理
例: Babinski(ハビンスキー) → Babinski
12. 世界への発信

5

例として、22年版と28年版の比較を示します

22年版

A 基本事項

- 1 医の原則
- 2 医療における安全性確保
- 3 コミュニケーションとチーム医療
- 4 課題探究・解決と学習の在り方

28年版

A 医師として求められる基本的な資質・能力

- 1 プロフェッショナリズム
- 2 医学知識と問題対応能力
- 3 診療技能と患者ケア
- 4 コミュニケーション能力
- 5 チーム医療の実践
- 6 医療の質と安全の管理
- 7 社会における医療の実践
- 8 科学的探究
- 9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

6

その他の改訂の概要: 今回言及された主な項目 1/2

B 社会と医学・医療

倫理規範と実践倫理: 臨床研究と医療における倫理
統計学

行動科学・社会科学、国際保健・スポーツ医学 など

C 医学一般

医学・医療にかかわる行動心理学

腫瘍、基礎栄養学

D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療

腫瘍性疾患

7

その他の改訂の概要: 今回言及された主な項目 2/2

E 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療

腫瘍の再掲、薬剤耐性、放射線の影響

フレイル、高齢者総合評価、死に至る心の過程、グリーフケア
など

F 診療の基本

臨床推論、EBM、ポリファーマシーなど

G 臨床実習

臨床推論、EPA、シミュレーション教育

詳細は本文をご覧ください

8